



乳がん検診 Q&A

～まっつん・ハマーの知って得する乳がん検診～

Q. 乳がんはどんな画像で発見されるの？

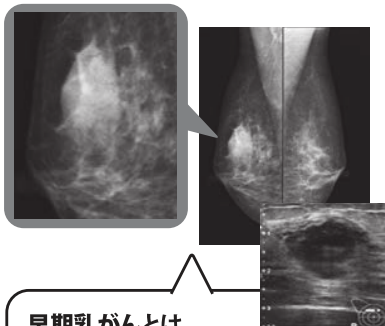
A. 乳がんにはいろいろな種類(組織型)があり、その種類によって様々な画像を呈します。今回は乳がんの画像を紹介します。

症例 ①

50代 自覚症状あり

- 触診:触知あり
- マンモグラフィ:辺縁が毛羽立って見えます。
- 超音波:腫瘍の境界が不明瞭です。
- 結果:2cm大の充実腺管癌でした。広範囲に乳房を切除し、術後は抗がん剤治療や、放射線治療も行っています。

しこりが触知できる乳がんです。



早期乳がんとは

- ・がんの大きさ2cm以下
- ・リンパ節転移なし
- ・他臓器転移なし

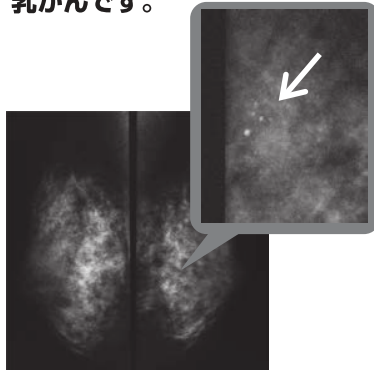
この症例は何年も前からしこりを自覚していましたが、検査を受けていなかった症例です。リンパ節転移も認められ、進行した状態の癌でした。

症例 ②

40代 自覚症状なし

- 触診:触知せず
- マンモグラフィ:悪性を疑うような石灰化をみとめます。
- 結果:非浸潤性乳管癌でした。術後は特に治療もなく6ヶ月毎の経過観察中です。

マンモグラフィで発見された乳がんです。



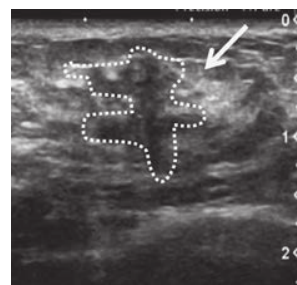
早期乳がんのサインでもある石灰化の描出はマンモグラフィの得意分野です。1年前のマンモグラフィには石灰化は写っていませんでした。がん細胞が乳管の中に留まっている状態の**非常に早期の乳がん**です。

症例 ③

40代 自覚症状なし

- マンモグラフィ:異常なし
- 超音波:腫瘍の形はなく、特異的な黒い部分が目立ちます。(悪性を疑う画像です)
- 結果:18mmの乳頭腺管癌でした。リンパ節転移はありませんでした。乳房の一部のみ切除、術後はホルモン剤内服で経過観察中です。

超音波(エコー)検査で発見された乳がんです。



マンモグラフィに写らない乳がんは、超音波で乳腺の自然な流れが途切れるところを注意深く観察することで発見されます。この症例は自覚症状もなくマンモグラフィにも写っていませんが、超音波で早期に発見された浸潤がんです。

マンモグラフィは死亡率減少効果があると証明されている検査です。

それでも症例③のようにマンモグラフィでは見つけれない乳がんもたくさんあります。自治体等が実施する対策型検診ではまだ取り入れられていませんが、当施設ではマンモグラフィと超音波(エコー)検査をセットで受けて頂くことをお勧めしています。検査内容についてのご質問は当施設にお問い合わせください。

